

第4講

14世紀：建武の新政－後醍醐天皇の恩賞は本当に不平等だったのか－（1991年度）

次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

1333（元弘3）年、後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒して一身に権力を集中し、「天下一統」を実現した。平安時代以来、貴族社会では、「先例」に従うことが正しい政治のありかただとする考えが支配的であった。天皇は、「今の先例も昔は新儀だった。私の行う新儀は未来には先例となるだろう」（『梅松論』）という言葉に示されるような意気込みで、つぎつぎに目新しい政治改革を打ち出した。

この急進的な改革に対しては、領地の所有に不安を抱いた武士だけでなく、貴族のなかからも批判があった。政権の中枢にいた北畠親房は、「一統の世」の実現をふり返って、「今こそ積年の弊を一掃する好機だったのに、それどころか、本所の領地でさえもことごとく勲功のあった者に与えられ、由緒ある家がほとんど名ばかりになってしまった例もある。こうして勲功を鼻にかけた者たちが天皇の政治を墮落させた結果、皇威もますます軽くなるかと思えた」（『神皇正統記』）と記している。

設問

- A 後醍醐天皇がこの政治改革でめざしたものは何か。3行（90字）以内で述べよ。
- B 北畠親房は、天皇の政治に対して、どのような立場からどのような批判をもっていたか。3行（90字）以内で述べよ。

解いてみましょう (第4講) Aについて

1 問われている (求められている) ことを確認する。

ア 「後醍醐天皇がこの政治改革でめざしたもの」について書く

イ 90字で書く

ことである。

改革とは、いつの時代でも

ア 「今までこうだった」ものを改めて、

イ 「何をする」ことによって、

ウ 「どのように変えた (変えようとした)」かである。

2 資料の内容で、ア～ウに関係する箇所にマーカー等でチェックを入れる。

ア

だとされていたものを改めて、

イ

ことによって、

ウ

した (しようとした)。

これが答案の概要となる。

3 ア～ウの具体的内容を記した教科書(プリント)の記述をマーカー等でチェックする。

エ

4 2で作った概要に、3でチェックした語句や内容を加えて答案の原案を作成する。

5 90字以内にまとめる。

次のページに、空欄に入る語句や該当する教科書のページ・行を記しています。
(推理小説でいうと、探偵が謎を明かしていく部分です。自力で犯人(解答)を当てたい方は御注意ください。)

第4講の解き方 Aについて（詳細） 【 謎解きの部分です 】

2 与えられた資料から関係する箇所を抜き出す。

ア 平安時代以来、貴族社会では、「先例」に従うことが正しい政治のありかた

だとされていたものを改めて、

イ つぎつぎに目新しい政治改革を打ち出す

ことによって、

ウ 一身に権力を集中

した（しようとした）。

3 ア～ウの具体的内容を記した教科書（プリント）の記述をマーカー等でチェックする。

エ

121 ページの 14～18 行



天皇は、幕府も院政も摂政・関白も否定して、天皇への権限集中をはかり、すべての土地所有権の確認は天皇の綸旨が必要とするという趣旨の法令を打ち出した。（略）中央には記録所や幕府の引付を受け継いだ雑訴決断所などを設置し、諸国には国司と守護を併置した。

抜き出したものをまとめる

- 4 2で作った概要に、3でチェックした語句や内容を加えて答案の原案を作成する。

エ

の否定だけではなく、

ア

も改めて

エ

も廃止し、

エ

などの

ウ

ことによって、

イ

した。

- 5 90字以内にまとめる。

解いてみましょう（第4講）Bについて

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア

について書く。その際に、

イ

に留意して書く。

ウ 3行（90字）以内で書く。

2 資料から北畠親房が批判している内容をチェックする（抜き出す）。

(1)

(2)

(3)

(4)

3 抜き出した部分の意味（意図）をアとイの観点に照らしあわせて一つ一つ確認する。

4 確認したものを、アとイの観点が明確に伝わるようにつなげる。

5 90字以内にまとめる。

今回は2段階の謎解きになっています。

次のページからは、空欄を補充した上で、「抜き出した部分の意味（意図）を確認していく」シートになっています。

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア 北畠親房は、天皇の政治に対してどのような批判をもっていたか

について書く。その際に、

イ 北畠親房が、どのような立場から批判したか

に留意して書く。

ウ 3行（90字）以内で書く。

2 資料から北畠親房が批判している内容をチェックする（抜き出す）。

(1) 今こそ積年の弊を一掃する好機だったのに、それどころか、本所の領地でさえもことごとく勲功のあった者に与えられた。

(2) 由緒ある家がほとんど名ばかりになってしまった例もある。

(3) こうして勲功を鼻にかけた者たちが天皇の政治を墮落させた。

(4) その結果、皇威もますます軽くなるかと思えた。

3 抜き出した部分の意味（意図）を一つ一つ確認し、アとイの観点が明確に伝わるようにまとめる。

(1) 今こそ積年の弊を一掃する好機だったのに、それどころか、本所の領地でさえもことごとく勲功のあった者に与えられた。

本所とは **ア** である。鎌倉時代、その多くは **イ** であった。
領地とは、**ウ** である。それがことごとく **エ** のあった者、つまり
討幕に活躍した **オ** に **カ** として与えられたと批判している。
ここから「積年の弊」とは、**オ** による **ウ** 支配（侵略）を指
していることがわかる。

(2) 由緒ある家がほとんど名ばかりになってしまった例もある。

由緒ある家とは **イ** である。それが(1)の結果「名ばかりになってしまった」と批判している。名ばかりになった理由は、2つ考えられる。

一つは、先例を無視した役所を設け、そこへ **エ** 重視の方針で、平安時代から鎌倉時代を通じて確立された **キ** を無視した **ク** を行ったこと。

二つめは、**エ** があった **オ** に、本来 **イ** のものであったはずの **ウ** を、**カ** として与えことで、**イ** を **ケ** させたことである。

(3) こうして勲功を鼻にかけた者たちが天皇の政治を墮落させた。

エ 重視で登用された **オ** たちが、そのことを自慢するようになり、**キ** という **コ** が混乱し、天皇政治を墮落させたと批判している。

ここから、北畠親房の立場は、**キ** 重視の **イ** 政治をよしとする立場だとわかる。

(4) その結果、皇威もますます軽くなるかと思えた。

(1)～(3)の結果、**サ** と批判している。

4 確認したものを、アとイの観点が明確に伝わるようにつなげる。

北畠親房は、 重視の 政治をよしとする立場から、

後醍醐天皇が 重視の方針で、本来、 のものであった

を として へ給与したり、

を無視した を行ったりしたことが、 を

させ、 の混乱をもたらし、

と批判している。

5 90字以内にまとめる。

<確認しよう>

「建武の新政」が失敗した理由 教科書の P. 121~122

まとめ

建武の新政は、「公家重視で武士に対して不平等」といわれてきた。しかし、恩賞の不平等は意図されたものではなかった。

新政が失敗した原因は、

ことであった。この事例は、歴史を学ぶ場合は、

ことを私たちに教えてくれる。